

第5回全国アパレルものづくりサミット

自己変革で未来をひらく NIPPONの工場

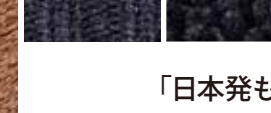
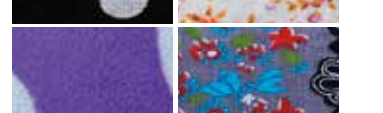
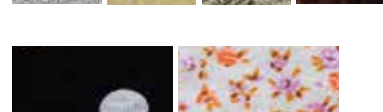
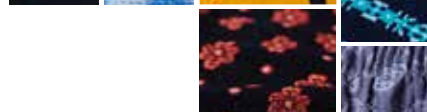
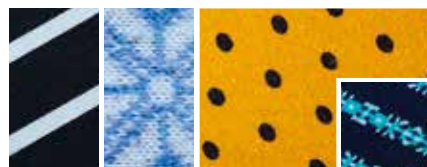
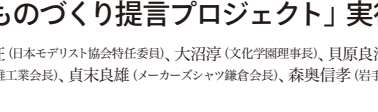
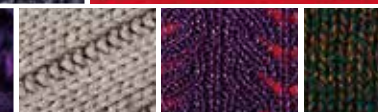
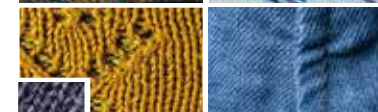
2017年12月16日(土) 午後1時~5時

学校法人文化学園 20階Aホール

懇親会：文化学園1階食堂

参加費 一般2,000円/学生1,000円

懇親会参加費 2,000円



「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会 主催

発起人/稲荷田征(日本モダリスト協会特任委員)、大沼淳(文化学園理事)、貝原良治(カイハラ会長・発起人代表)、
久米信行(久米繊維工業会長)、貞木良雄(メーカーズシャツ鎌倉会長)、森奥信孝(岩手モリヤ社長)

第5回 全国アパレルものづくりサミット

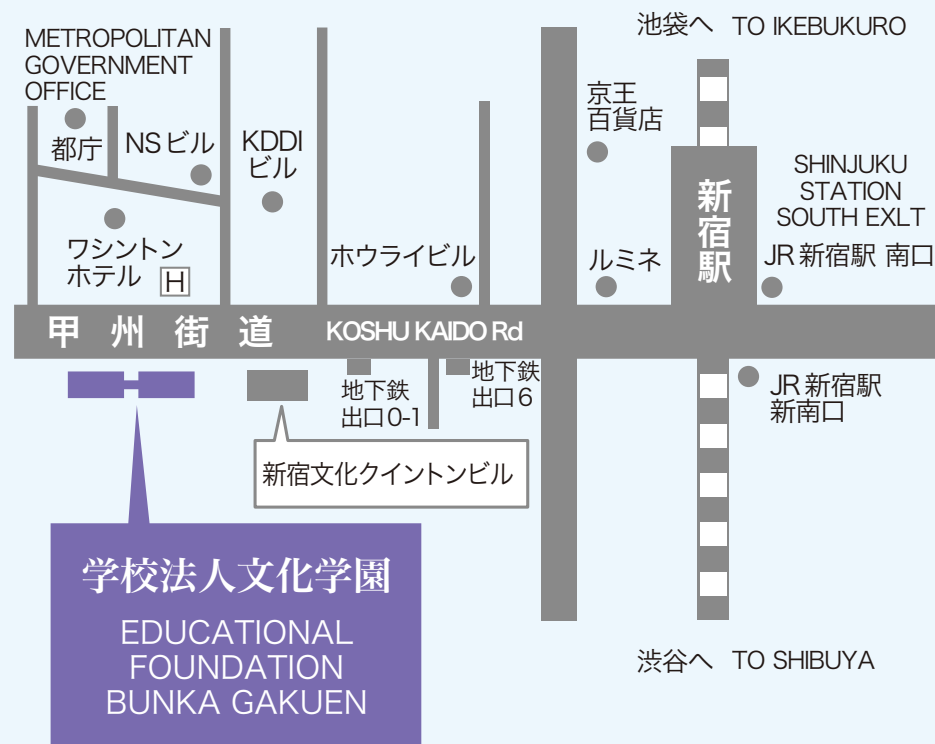
【企画趣旨】

日本のアパレル産業は構造不況が叫ばれ、既存のファッションビジネスは大きな変革期にあります。一方、「メイド・イン・ジャパン」を支えてきた国内製造業も依然として縮小傾向に歯止めが掛かっていません。今回は「アパレルものづくりサミット」の原点に立ち返り、「工場、自身の意識改革をテーマに取りあげました。このため、ユニークな取り組みをしている工場経営者や、若手経営トップの方々にお集まりいただき、「変わらなければ生き残れない」を全国のアパレル製造業者に正面から訴えます。どんな工場もトップのやる気次第で変わる、活路は他人任せではなく自らひらくもの、という共通認識を確立し、日本のアパレル製造業のさらなる自己変革を進める跳躍台の役割を果たしたいと願っています。

お問い合わせ先：「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会 事務局
電話 03-3513-7931（アパレル工業新聞社気付）

会場アクセス

学校法人文化学園 20階Aホール



JR（山手線・中央線・総武線・埼京線・湘南新宿ライン）、小田急線、京王線、都営新宿線、都営大江戸線、丸ノ内線、西武新宿線 新宿駅下車 新宿駅から徒歩で約8分 JR 新宿駅南口より、甲州街道に沿って初台方面へ徒歩8分

■第1部「基調報告」



佐藤 正樹氏

佐藤繊維株式会社 代表取締役社長 (山形)

世界的に評価が高い紡績糸やオリジナルブランドで製品ビジネスを手掛けている佐藤繊維。紡績に加え、新たに染色を内製化し、無縫製横編み機「ホールガーメント」専用工場も本格稼働させた。この一貫体制によってトータルコストで中国製と戦えるニットOEM提案にも乗り出している。

司会



久米 信行氏

久米繊維工業株式会社 取締役会長 (東京)

■第2部「ティーチ・イン」



本田 大氏

株式会社ワークス 取締役工場長 (青森)

メンズ既製のスーツ、セットアップ、ジャケットを中心に約30ブランドを生産。人員は約120人で、日産200着。パターンを重視し、青森県認定「縫製マイスター」でもある本田工場長は、「技術をパターンに落とし込んでいる」と話す。パターンを介してメーカーと工場のコラボに力点をおく。



横井 享氏

株式会社サンヨーソーイング 代表取締役社長 (青森)

青森に拠点を構えるサンヨーソーイングで特に定評があるのは綿ギャバジンの縫製技術。コートにこだわって高品質の製品を作り続けてきた技術力は高く評価されている。その卓越した技術力は、約半世紀の長い年月を掛けて培ってきた。純国産表示制度「J∞クオリティ」認証工場の第1号である。



森奥 信孝氏

岩手モリヤ株式会社 代表取締役社長 (岩手)

「日本発ものづくり提言プロジェクト」発起人の一人。婦人ジャケットやコートを主力に高品質な商品を提供する国内の代表的なアパレル工場として知られている。厳しい環境が続く中、一企業だけの力だけでは限界があるとして、「北いわて」を中心に地域連携で縫製業の生き残りを目指す。



大江 健氏

米富繊維株式会社 代表取締役社長 (山形)

40年以上に渡るニットテキスタイルの開発技術は、世界でも類を見ないクオリティを実現。その技術を基に素材開発から商品開発、量産に至るまでを一貫して山形県山辺町の自社ファクトリーで行い、ODM/OEM/自社ブランドの3事業を柱に企画・生産・販売を手掛けている。



岡部 英一氏

有限会社岡部縫製 代表取締役社長 (福島)

「とにかく良いシャツを」が岡部社長の口ぐせ。技術に裏打ちされた品質や生産性追求への真摯な取り組みでメーカーズシャツ鎌倉など取引先からの信頼も厚い。東日本大震災で大きな被害を受けたが、取引先からの協力を得て工場再開後もますますメイド・イン・ジャパンの技術に磨きをかけている。



伴 英一郎氏

光和衣料株式会社 代表取締役社長 (埼玉)

セラー服をメインにした女子制服「スクールパール」や男子制服「スクールロード」を製造販売するメーカーで、埼玉県久喜市に本社工場がある。意欲的な工場改革で多品種小ロットの学校制服を生産するとともに、「縫製現場のファッションショー」などユニークな取り組みも行っている。



辻 吉樹氏

株式会社辻洋装店 専務取締役 (東京)

「婦人プレタ工場のツジ」として知られている東京・中野区にある工場。50人を超す人員は、今や都内工場では最大の規模だ。そのモノ作りを支えているのは、毎年新卒者を採用し、若手の技術者養成に取り組んできた歴史である。3代目の辻専務にも「人作り」への熱い思いが継承されている。



浅野 勝三氏

サンエース株式会社 専務取締役 (岐阜)

メンズアパレルのサンエースは数々の実用新案をベースにしたモノ作りが特色。自社工場「サンワーク」で高難度の商品を手掛けているが、技術継承のため数年前から日本人技術者の養成に取り組んだ。岐阜産地でも実習生頼りを見直そうと、今年から技術者育成講座がスタートした。



山中 英作氏

株式会社マシュール 代表取締役 (高知)

地元高知発祥の「よさこい祭り」の衣装をはじめ、防災用衣料品、オリジナル商品を全国から受注し、今では自社企画商品の売り上げが85%を占める。委託加工を主力としていたが、受注減で会社存続の危機に陥る。「自立化事業」の成功例で、よさこい衣装に取り組んだ結果、業績が急回復した。



前田 周二氏

株式会社エミネントスラックス 代表取締役社長 (長崎)

スラックス専門メーカーであるエミネントの自家工場、松浦工場 (長崎県) は他ともに認める日本を代表するスラックス工場。はき心地の良さを追求するため独自プレスや芯地、ファスナーの開発などを継続。機械、システムだけでなく多能職・熟練技術者との相乗効果で高品質を実現している。

■コメンテーター：日本発ものづくり提言プロジェクト実行委員会発起人、貝原 良治氏 (カイハラ会長)、貞末 良雄氏 (メーカーズシャツ鎌倉会長)、稲荷田 征氏 (日本モデリスト協会特任委員)

「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会 主催 受付係行き

参加登録票

ご提出先 F A X : 03-5261-7075

メールアドレス : info@apako-news.com

※会場整理の関係上、事前参加登録制とさせていただきます。

※参加費は当日受付でお支払ください。

※複数参加の場合は、恐れいりますが、コピーを取りお申し込み下さい

申込み締切日

12月8日(金)

(ふりがな)	
※お名前	

ご連絡先	〒□□□-□□□□
	ご住所 都道府県 市区町村
	TEL
	E-Mail

所属 (会社・団体・学校)
どちらかに○を付けてください。
・社会人 (職種 :) ・学生
どちらかに☑を付けてください。
<input type="checkbox"/> サミットのみ参加 <input type="checkbox"/> サミット+懇親会

アパレル&ファッション分野の「MADE IN JAPAN」の現状とこれからへのご意見や、アパレル製造業（縫製・ニット）の皆さんへのメッセージ、誰に何を聞きたいのか、自己変革に必要なことなど。

全国アパレルものづくりサミット
12・16 第5回